

【青年期の発達障害の特徴】

発達障害は脳機能の発達が関係する生まれつきの障害です。その特性は子どもの頃から現れて、大人になっても変わることはありません。発達障害に対する社会の認識が十分ではなかったため、本人も周囲も障害であることに気づかないまま過ごし、そのためにトラブルが生じることも少なくありません。適切に支援されないことが続くと二次障害が生じることがあります。ここでは発達障害の中でも代表的なADHDと自閉症スペクトラムについて、青年期の特徴と対応について説明します。

ADHDの青年期の特徴としては、次のようなことが挙げられます

- 叱られ体験や失敗体験が多いため自尊心が低い
- 衝動性が高いため順番を待てず、ゲームや会話で相手を押しつけてしまう
- スリルやリスクを求めて危険な遊びや誘いに乗ってしまう
- 思いついたことをそのまま口にするため人間関係が悪くなる

対応としては・・・

- うまくできていることを見つけて評価する
- 刺激を減らす（色を減らす、音を減らす等）
- 行動の逸脱への対応（人、場所、時間、言葉）を決めておく

自閉症スペクトラムの青年期の特徴としては、次のようなことが挙げられます

- 周囲の生徒との違いに気づき、自覚するようになる
- 自分が高く評価されていない、いじめられている、孤立させられている、と感じる傾向が強く、被害的になりやすい
- 抑うつ的になったり、奇異な行動をとったり、極端な結論を出したり、被害的になったり、自我同一性障害に発展したりと、さまざまに展開する
- 対人関係の失敗から人付き合いを避けたり、一人であることを正当化したりする
- 触覚に過度に敏感で身体に触れられるのを嫌がる

対応としては・・・

- 学校行事や授業変更、新学期の体制などを事前に予告する
- 困ったとき、苦しくなったときに行く場所を決めておく
- 専門家と連携しながら生徒が自己理解できるよう関わりを進めていく
- 周囲の生徒の理解を図る

【参考図書】

- 井上雅彦・井澤信三編 高機能自閉症・アスペルガー症候群への思春期・青年期支援 明治図書 2012
- 内山登紀夫・水野薫・吉田友子 高機能自閉症・アスペルガー症候群入門 中央法規 2002
- キャロル・グレイ著 門真一郎訳 コミック会話 明石書店 2005
- 柘植雅義・石隈利紀編 高等学校の特別支援教育 Q&A教師・親が知っておきたい70のポイント 金子書房 2013

教育相談センターの事例から見た

高校生への効果的な 特別指導



皆さんの高校には、こんな生徒はいませんか。「特別指導を受けることになったのに、嫌だと言って、学校に来なくなってしまった」「反省文を書こうとしないので、特別指導が終わらない」「自分の行動を全然反省していないように見える」

生徒の問題行動に対する特別指導がスムーズに進まない、と学校からご相談を受ける事が多くなっています。今までのやり方や、他の生徒には通じるやり方が通用しない、どうしてなのか分からないという声がたくさん聞こえてきます。このような生徒は、もしかすると発達障害の特性があるのかもしれない。その生徒の特性に合わせた配慮があると、特別指導に取り組むことができるかもしれません。

特別指導は、やがて出て行く社会で不適應にならないように、ルールや正しい行動を学ぶ貴重な機会にもなります。教育相談課では、高校生の相談事例から、生徒の特性に合わせた特別指導について検討しました。発達障害のある生徒にとって分かりやすい指示や指導は、すべての生徒にとって理解しやすい指導です。皆さんの高校で、今までの方法ではうまくいかない生徒がいたら、このリーフレットをご活用ください。

神奈川県立総合教育センター

平成25年11月

こんな生徒はいませんか？

事例1 問題行動を繰り返す衝動性の高いAさん

Aさんは授業中、教員の説明に反応して大声を出すことがあり、その度に注意を受けていた。また、突然教室を抜け出ることもあり、そのことでも教員から注意を受けることが多かった。

ある日の授業中、教員の説明に大声で反応したAさんは教員から厳しく注意を受け、そのことに腹を立てて教室を飛び出した。しばらくして近所のコンビニにいるところを教員に発見されたが、Aさんは学校に戻るよう促されても従わなかった。ついには教員の制止を振り払い、暴言を吐いてその場を立ち去った。

たびたび教員から注意を受けているにも関わらず、一向に従おうとしないこと、教員の制止を振り切り暴言を吐いて立ち去ったこと等からAさんは特別指導を受けることになった。

事例2 指導にも関わらず反省しないBさん

Bさんは片付けが苦手で、机の周りは借りた本や配付物などで散らかっていた。Bさんの考え方は独特で、クラスの中にはBさんの発言や行動を不快に思う生徒もいた。Bさんは悪口を言われたりちょっかいを出されたりすることがあった。

大掃除のとき、Bさんがなかなか自分の荷物を片付けようとしなかったため後ろの席の生徒が大声でBさんを怒鳴った。危害を加えられると思ったBさんは護身用に鞆の中に隠していたナイフを取り出し、怒鳴った生徒に向けた。幸い周囲の生徒が間に入ってその場は収まったがBさんは特別指導を受けることになった。

Bさんは特別指導を受けることに不服だった。指導の一環として反省文の提出を求められ、しぶしぶ提出したがその内容は学校が求めるものとはかけ離れたものだった。反省の色が見えないと学校は判断して指導期間を延長した。

行動の裏側には・・・

◇衝動性が高いため、あまり深く考えずに行動してしまう

◇刺激に反応しやすい

◇自分をコントロールすることが難しい

◇どういう結果になるか見通しを持ちにくい

◆叱られ体験が多いため、大人への不信感が強い

◆認められる場面が少なかったため、自己肯定感が低い

◇相手の気持ちを理解するのが難しい

◇自分の気持ちを上手く表現できない

◇感覚過敏で大きな音が苦手

◇思考の固さから状況に応じた行動を取れない

◆自分に向けられた強い言葉や視線によって被害感を持ちやすい

◆社会性を獲得していないので過激な表現になりやすい

◆フラッシュバックしやすい

◇特性
◆二次障害的特性

特性に配慮した対応

発達障害などにより、自分一人で反省したり行動を改善することが困難な生徒もいます。そのため、特別指導として問題行動の経緯や予防の方法を生徒と一緒に考えることが必要です。

問題行動の分析

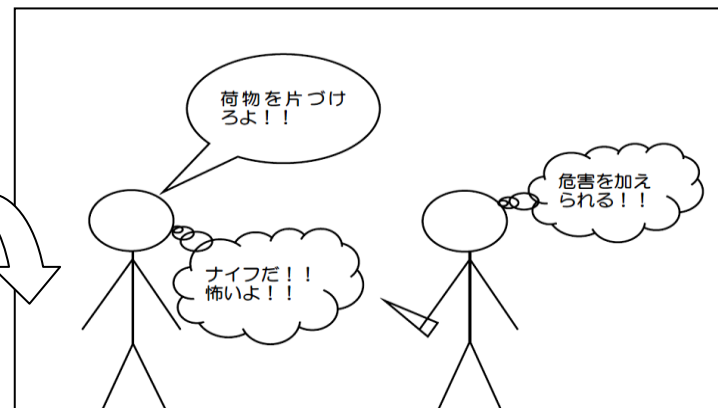
- ・言葉で言われるよりも目で見た方が理解しやすい生徒もいます。問題行動について、表や図を使って“視覚的”に理解させましょう。
- ・相手の気持ちを理解させるためにコミック会話(※)などを活用して、相手の気持ちを言語化しましょう。

事例1

A【きっかけ】	B【行動】	C【結果】
いつ：授業中 どこで：教室 状況：先生に「うるさいぞ。静かに聞くように」と注意された。	先生に、「うるさいのはそっちだ！」と言いつつ、また注意されたので、教室を飛び出した。	教室を出て、コンビニで時間をつぶしている、先生に戻るよう言われて、また注意された。

(※) コミック会話とは、人物を線画で描き、「吹き出し」の中に台詞や気持ちを入れ、状況を視覚化してわかりやすくしたものです。

事例2



問題行動の予防

- ・どうすれば問題行動を防ぐことができたか、今後起こさないためにはどうすればよいかを一緒に考え、必要な場合は約束書を作りましょう。
- ・反省文と言われてもどう書いたらよいかかわからない生徒もいます。振り返りシートや約束書などを反省文に代用することも考えましょう。

事例1

約束書
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中は校外に出ない。 ・ イライラした時は保健室に行く。 ・ 週に1回〇〇先生と約束を確認する。

事例2

振り返りシート

実施日： 〇年 〇月 〇日
〇年〇組 名前：〇〇 〇〇

今回の出来事	考えられる他の方法	他の方法を実行するためにできること・すること
荷物を片づけるように大声で怒鳴られ、護身用に隠していたナイフを取り出し、怒鳴った生徒にナイフに向けた	Q ナイフを使わないためには？ ⇒ナイフを持ってこない	ナイフを持ってこない Q 持ってこないためにできることは？ ⇒言葉で伝えるようにする
	その場からいなくなる Q いなくなるって、どこに行くの？ ⇒顔を冷やせる場所	困ったときに行く場所を決めておく Q 思いつく場所は？ ⇒保健室 図書室 職員室
	怒鳴られないようにする Q どうやって？ ⇒片づけができるようにする	

指導の見通しを示す

- ・生徒ができること・できないこと、わかっていること・わかっていないこと等を考慮して課題を決めましょう。
- ・どうすれば教室での学習に参加できるか、具体的に順を追って書面で示しましょう。

今後の予定

<第1段階>
・ 〇月〇日(〇) ~ 〇月〇日(〇)
・ 自宅で課題を行う。

課題	提出：〇月〇日(〇)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇プリント 〇枚 ・ 漢字書き取り 〇枚 ・ 〇〇問題集 p〇~〇 ・ 日誌(反省文) 	

<第2段階>
・ 〇月〇日(〇) ~ 〇月〇日(〇) ※第1段階終了後、2週間程度
・ 別室で課題を行う。

【注意】
・ 登校したら、職員室の〇〇先生に報告します。
・ 別室用の時間割に沿って、各教科の課題を行います。(問題集やプリント等)
・ 〇〇先生と面談します。(これからのことを話し合います)

生徒との信頼関係をつくるために、教員から積極的に関わってください

⇨「生徒の自己理解を促す 共感的な対話」(H25.総合教育センター)参照